

# 「被造物の望み」

ローマ8：19－25

堀田修一

23・8・6

I 神に造られた被造物が切実な思いで、待ち望んでいること。

1. 「被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れる（主の再臨による救いの完成の栄化、栄光のからだ）のを待ち望んでいます」：19。聖書は、神に対する墮落と神による救いをただ人間だけの救いと教えず、宇宙大の墮落（人間の罪の影響）と偉大な救いを教える。その偉大な救いを教えるみことば→「（主の）十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるもの天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださったからです」（コロサイ1：20）。全被造物が、首を長くして、主の再臨により栄光のからだとされたキリスト者＝神の子どもたちの出現を待望しているのは、キリスト者が救いの初穂（後に続く被造物の栄光の自由の保証）であり、主の再臨により完成されたキリスト者の出現が、全宇宙、全被造物の贖い＝新創造の序曲だから。
2. 「被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです」：20。全宇宙、全被造物は今、虚無（原語：本来の効力を失い実を結ばない）に服している→被造物の管理者のアダムが神に罪を犯したときに神は言われた。「あなたが妻の聲に従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる」（創世記3：17）。美しい自然も、人間の罪のせいで、のろわれて、うめいている。異常気象、自然災害も世の終わり、主の再臨に向けて多くなっている現実を私たちは今、実感している。神が造られた被造物がそのようなうめく状態に服したのは、被造物自身の意志と責任によることではなかった。それゆえに、人間だけではなく、被造物（天体、自然、動物、生き物）には、神によって新創造される望みがあるのです。
3. 「被造物自体も、滅び（原語：腐敗、破壊）の束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります」：21。滅びの呪縛に縛られている全被造物も、やがて主の再臨の時に、解放されて栄光の自由の中に入れられます。私たちキリスト者も、主の再臨の時に神の救いの完成＝栄光の自由の新しいからだに変えられる。全被造物もキリスト者、神の子どもたちの栄光の自由という神の救いの完成にあずかり、全被造物も救いの完成、栄光の自由の中に入れられます。その時は何と素晴らしい日、時でしょう！これまでも、現在も生き物を愛し、保護し、最後には悲しい別れをした方々は、本日のみことばから深い慰めを受けて下さい。自然界も生き物も死で終わりではないのです。主の再臨の時に、神が造られた被造物は、新しいいのち、滅びの束縛から解放され、栄光の自由にあずかるのです。
4. 「私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています」：22。神が造られた全被造物は、今に至るまで、人間の罪故に、ともにうめき、ともに産みの苦しみ（陣痛のような激しい痛み）をしています。全自然と全宇宙がとも

にうめき、ともに、主の再臨の時に神の救いの完成が産み出されるという希望をもって産みの苦しみをしているのです。希望のない絶望の苦しみではなく、神の救いの完成（人の救いだけでなく全被造物の完全な回復、新創造の完成）のために希望を持って産みの苦しみをしています。

Ⅱ 創世記、イザヤ書、黙示録から本日のみことばの理解を補い合ひましょう。旧約と新約は補い合う。

1. 「神は仰せられた。『見よ。わたしは、地の全面にある、種のできるすべての草と、種の入った実のあるすべての木を、今あなたがたに与える。あなたがたにとってそれは食物となる。また、生きるいのちのある、地のすべての獣、空のすべての鳥、地の上を這うすべてのもののために、すべての緑の草を食物として与える。』すると、そのようになった。神はご自分が造ったすべてのものを見られた。見よ、それは非常に良かった（完全だった）」創世記1：29－31。神に人間が背く前は、全被造物は完全であり、人間と生き物は、生き物を殺して食物を得るのではなく、生き物は、神が備えられた木の実や草を食物とされた。人間も生物も殺し合うことのない、全き平和な世界でした。※この箇所を頼りに、肉を食べられないベジタリアン、菜食主義の方々がおられるが、人間が墮落する前は、神は、人が菜食でも、栄養をバランスよく取れるようにされていたが、人に罪が入ってからは、人の体も体質が変わり、野菜とタンパク質（肉、魚等）をバランス良く取る必要があります。注意して下さい。

2. 創世記3章でアダムとエバが神に背き罪が世界に入ってから、大地は人の罪の故にのろわれ（3：17）、地上に悪が増大するのをご覧になった神は、ノアの洪水で義のさばきを行われた（創世記6－8章）。

それから、草食の平和な世界から、肉食の弱肉強食の世界になった。「生きて動いているものはみな、あなたがたの食物となる。緑の草と同じように、そのすべてのものを、今、あなたがたに与える」（9：3）

3. しかし、イザヤ書に主イエスが再臨されて新創造される素晴らしい新天新地の姿が記されています。

「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。…わたしが創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。見よ。わたしは…その民を楽しみとする。そこではもう、泣き声も叫び声も聞かれない。…狼と子羊はともに草をはみ、獅子は牛のように藁を食べ、蛇はちりを食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼすこともない—主は言われる」（イザヤ65：17－19, 24, 25）。「狼は子羊とともに宿り、豹は子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜がともにいて、小さな子どもがこれを追って行く。雌牛と熊は草をはみ、その子たちはともに伏し、獅子も牛のように藁を食う。…わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を与えず、滅ぼさない。主を知る（交わる）ことが、海をおおう水のように地に満ちるからである」（11：6－9）。再臨後の新天新地では、罪のないエデンの園のように、肉食ではなく、人も動物も草食となり、人間も被造物も完全な愛と平和をもって神を中心にして、いついつまでも楽しみ喜ぶのです。ハレルヤ！

4. 主の再臨による新天新地では、神のすべての民と多くの天使たちとともに、本日のローマ8：

21のみことば「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかり」が成就し、神が造られた全被造物も神が最も喜ばれる礼拝に参加し、神と私たちの罪のために十字架で死なれた子羊なる御子を賛美します。「私（ヨハネ）は、天と地の下と海にいるすべての造られたもの、それらの中にあるすべてのものがこう言うのを聞いた。『御座についておられる方と子羊（御子イエス）に、賛美と誉れと栄光と力が世々限りなくあるように』（黙示録5：13）。

Ⅲ「それだけではなく、御霊の初穂（保証）をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、（主の再臨により）わたしたちのからだを贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。私たちは、この望みとともに救われたのです。目に見える望みは望みではありません。目で見ているものを、だれが望むでしょう。私たちはまだ見えないもの（主の再臨による救いの完成）を望んでいるのですから、忍耐して待ち望みます」：23—25。私たちは、すでに主を信じる信仰により救われています。しかし、主の再臨まで、救いの完成（私たちのからだを贖われ、罪のない栄光のからだに変えられる）を望んで、忍耐して待ち望みたい。その救いの完成まで、この地上では苦悩と戦いがありますが、現在も主は共におられ支えて下さいます。今後、神の時に、主は確実に再臨され、主を信じる私たちの救いの完成、新創造と全被造物の真の贖い、新創造による栄光の自由を与えて下さるのです。今、その救いの完成のための産みの苦しみはありますが、御霊ご自身に頼って主の再臨の希望を持って歩みましょう。